診断書からみた管内死亡牛・廃用牛の状況

安全対策課　小鴨　睦

平成16～25年の10年間で、24ヶ月齢以上の死亡牛が約3500頭、平成22年からの4年間で、24ヶ月齢未満の死亡牛が約1500頭ｽﾄｯｸﾎﾟｲﾝﾄに搬入された。また、平成21からの5年間で、約3600頭が廃用牛（病畜）として食肉センターに搬入された。(図-1)。これらの牛の、診断書又は検案書から管内の死亡牛廃用牛の状況を調べたので紹介する。

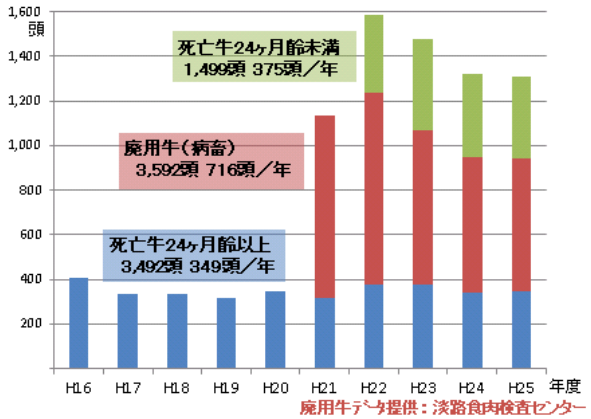

図-1 管内の死亡牛・廃用牛頭数

1．材料及び方法

1)24ヶ月齢以上の死亡牛及び廃用牛

ﾎﾙｽﾀｲﾝ(HOL) の年齢区分は、2歳～、4歳～、6歳～、8歳～の4区分、和牛(JB)は、HOLに比較し供用期間が長いことと2歳時は肥育牛が多く含まれることから2歳、3歳～、8歳～、13歳～、18歳～の5区とした。疾病割合は、死亡牛10年間、廃用牛 5年間の全疾病中の対象疾病の割合とした。年齢区分毎の疾病割合は、同年齢区分内での対象疾病の割合とした。季節区分は4-6月（春)、7-9月（夏)、10-12月（秋)、1-3月（冬）とした。

2)24ヶ月齢未満の死亡牛

疾病割合は、4年間の全疾病中の対象疾病の割合とした。月齢区分は、0～23ヶ月齢の毎月、季節区分は24ヶ月齢以上と同じとした。

2．結果

1)24ヶ月齢以上の死亡牛

HOLの年平均死亡頭数は256頭とJBの86頭に比較し約3倍であった。年齢別では、実際の年齢構成が不明のため明確ではないものの、HOLでは4歳くらいを山に以降低下し、年齢構成を反映していると考えられた。JBは、13歳を超えたくらいに1つ山があると思われた。季節別では、HOLはやはり夏場が多く、JBでは大差ないものの冬場に多いと思われた（図-2)。

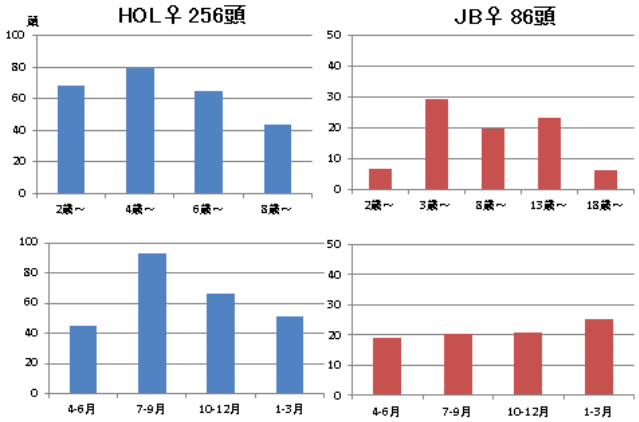

図-2 年間平均死亡頭数 24ヶ月齢以上 （H16～H25）

疾病の割合は、いずれも心不全が多くHOLは35%、乳房炎10%、ダウナー症候群7%、熱射病7%であった。JBの心不全は48%、肺炎8%、急性鼓脹症8%、肝炎7%、脂肪壊死症6%であった(図-3)。

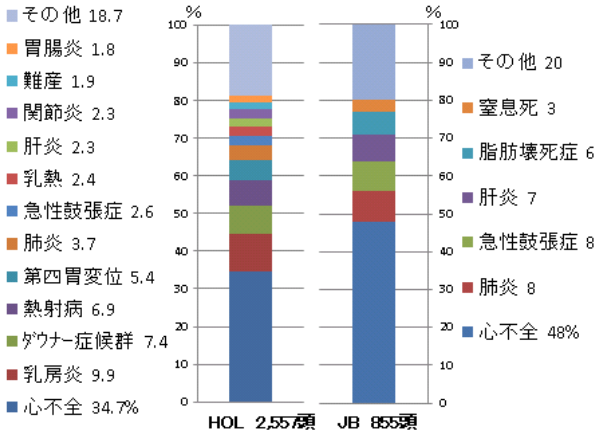

図-3 24ヶ月齢以上死亡牛の疾病割合

HOLでは乳房炎とダウナー症候群の割合が加齢と共に増加した。熱射病に加え、乳房炎、ダウナー症候群や関節炎も暑い時期に多く、やはりHOLにとって夏は厳しいと考えられた。熱射病は、猛暑や酷暑と呼ばれた年に多く発生しており、今後も温暖化が危惧される為、暑熱対策はより重要になるものと考える(図-4)。JBの肝炎、脂肪壊死は冬場に多く、2歳では、肺炎・急

性鼓脹が多かったが肥育牛の割合が高いためと考えられた。

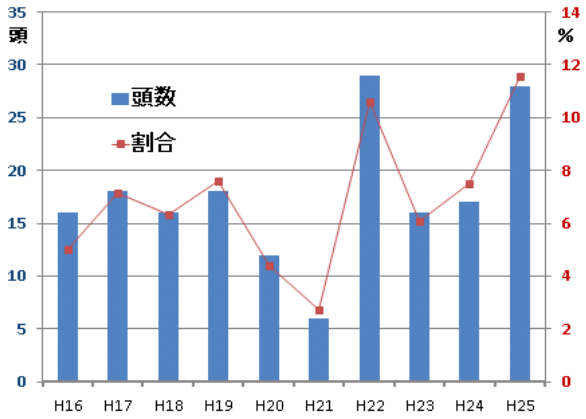

図-4 熱射病死亡頭数と割合

2)24 ヶ月齢以上の廃用牛

HOL の年平均廃用頭数は 588 頭と JB の 119 頭に比較し約 5 倍であった。年齢別で HOL は死亡牛と同様、JB も死亡牛同様に高齢で少し増加している様に思われた。

季節別で、HOL は死亡牛と同様、夏場に多かったものの、JB には特徴的な差はみられなかった（図-5）。

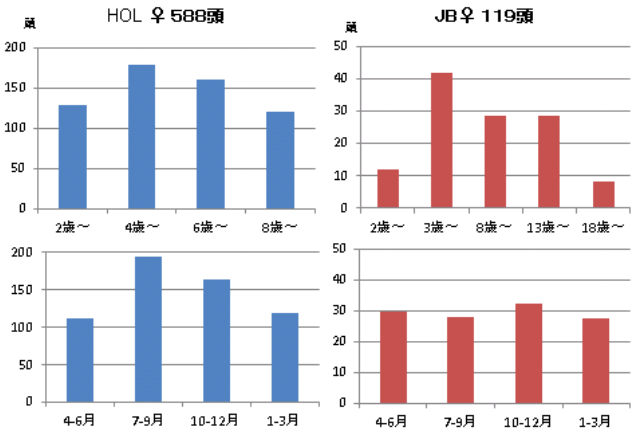

図-5 年間平均 廃用 頭数 24ヶ月齢以上（H21～H25）

疾病の割合は、HOL では関節炎が 3 割を占め、死亡牛と同様、乳房炎、ダウナー症候群と多くなっていた。JB は、脂肪壊死症が約 4 割と高く、肝炎 12%、腰痿 8%、胃腸炎 6%、脱臼 6%であった（図-6）。

HOL では、死亡牛同様、ダウナー症候群が加齢と共に割合が増加し、熱射病、ダウナー症候群と合わせ、関節炎も夏から秋にかけて多くみられた。JB では、肝炎・脱臼が加齢と共に割合が増加した。

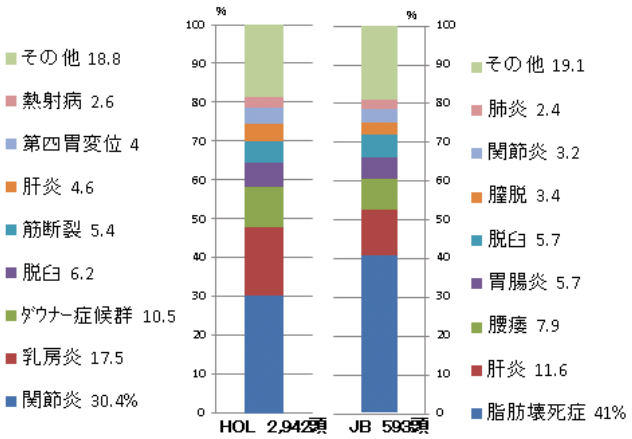

図-6 24ヶ月齢以上廃用牛の疾病割合

3)24 ヶ月齢未満の死亡牛

平成 22 年からの 4 年間で、HOL 384 頭（♀204、♂180）、JB818 頭（♀406、♂412）、F1 297 頭（♀127、♂170）が死亡した。全種類において死亡原因の 1 位は心不全、2 位は肺炎であった。これら 2 疾病で、HOL の♀では約半数、♂では 7 割、JB の♀では 7 割、♂では 6 割半、F1 の♀では 7 割弱、♂では 6 割半を占めていた（図-7, 8, 9）。

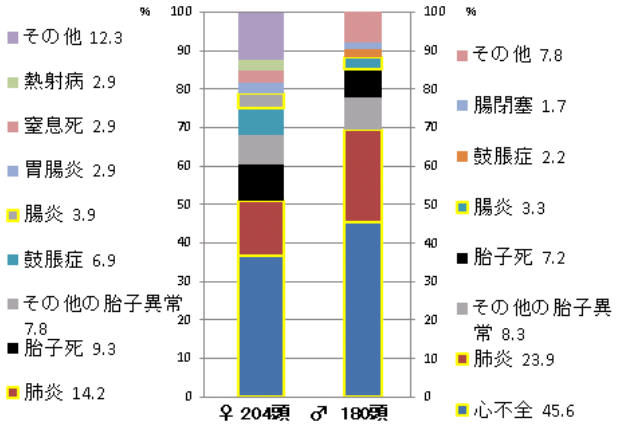

図-7 HOL死亡牛（24ヶ月齢未満）の疾病割合

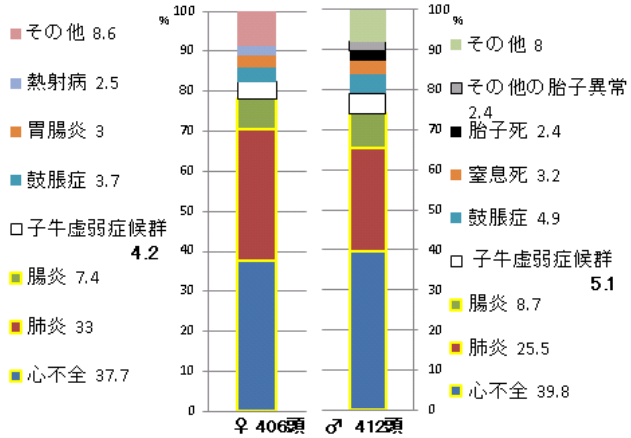

図-8 JB死亡牛（24ヶ月齢未満）の疾病割合

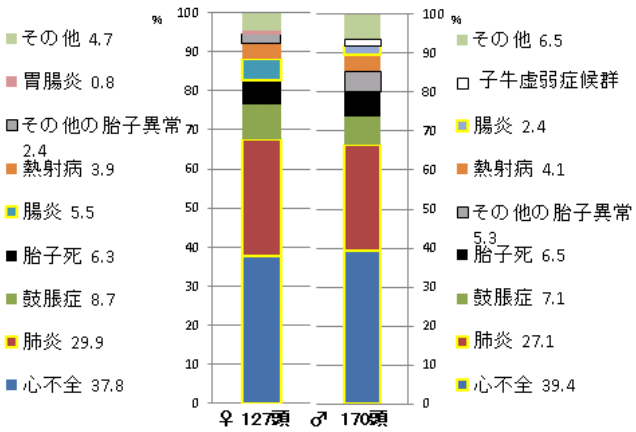

図-9 F1死亡牛（24ヶ月齢未満）の疾病割合

上位2疾病に続き、HOLではその他の胎子異常、胎子死が多く、腸炎、鼓脹症と続き♀で約8割♂で約9割を、JBでは、腸炎、子牛虚弱症候群と続き約8割を占めていた。F1では、鼓脹症、胎子死と続き、約8割を占めていた。

管内の飼養頭数の影響も有り、全種類とも9ヶ月齢までの死亡が多かった（図-10）ので、9ヶ月齢までの4年間の死亡総頭数を示した。ただし、心不全と、分娩時に限定される胎子死、その他の胎子異常は除いた（図-11）。いずれも、肺炎（茶色）が0ヶ月齢からほぼ全期間を通してみられ、黒で示した腸炎が、3ヶ月齢未満で多く見られた。特に、JB子牛の1ヶ月齢までは、腸炎が肺炎より多発していた。このことより若齢時期の腸炎と、それと同時期以降続く肺炎による損耗が多いことが判った。

また肺炎は冬場、腸炎は冬から春にかけ多くみられたことから、特に冬から春先にかけての肺炎、若齢時からの腸炎への対応が重要と考えられた。

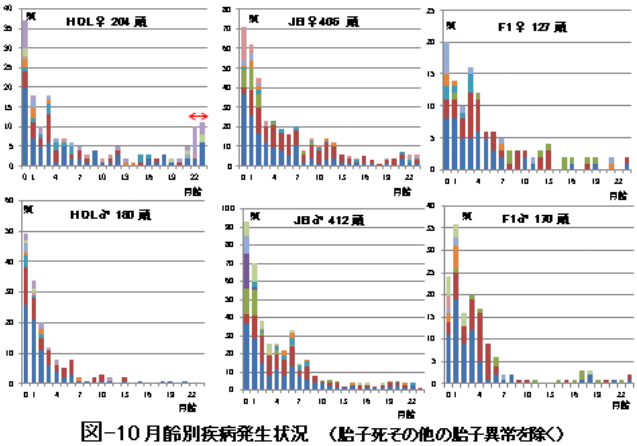

図-10 月齢別疾病発生状況　（胎子死その他の胎子異常を除く）

3．おわりに

心不全以外に、HOLの成牛では、乳房炎、関節炎、脱臼、ダウナー症候群や熱射病、JBの成牛では脂肪壊死症、肝炎、肺炎、子牛では肺炎、腸炎と昔から問題となっている疾病が依然として多くみられた。

今後は、これらの情報提供を行い、家畜の損耗防止に役立てたい。

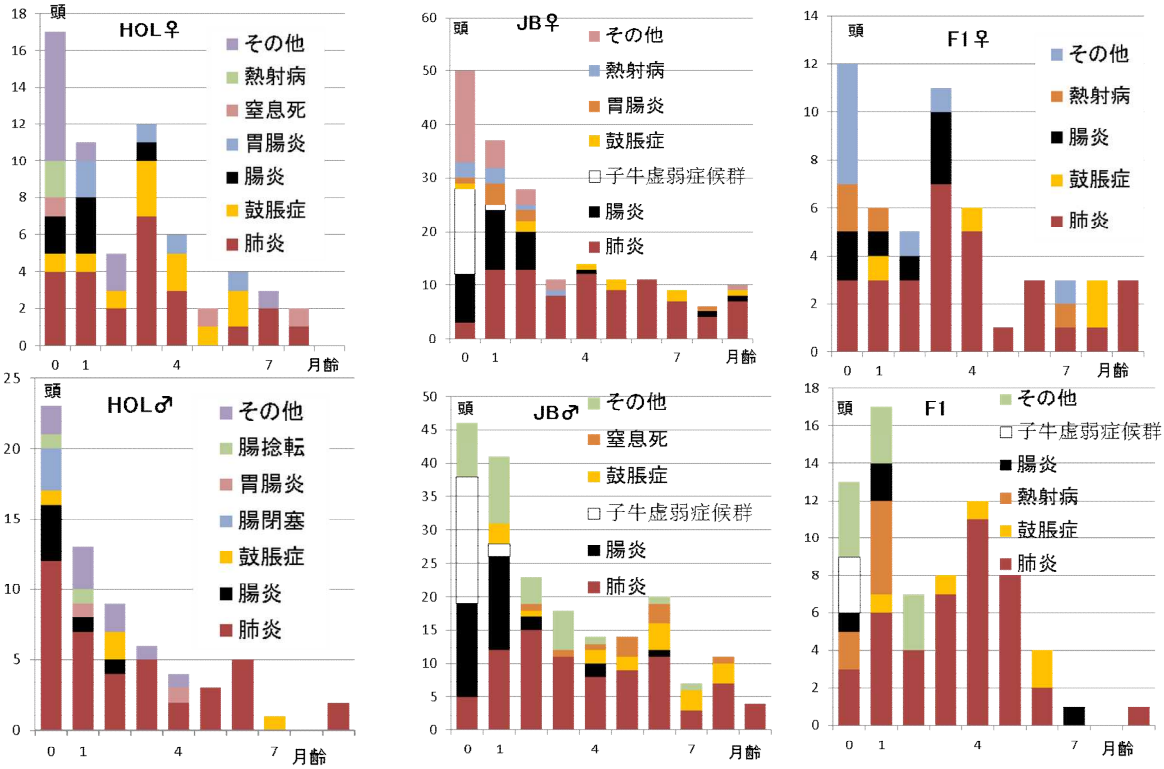

図-11 月齢別疾病発生状況　（心不全、胎子死、その他の胎子異常を除く）